



PRESS RELEASE

NATIONAL
BALLET
OF JAPAN

ホフマン物語

芸術監督: 吉田 都

Artistic Director: YOSHIDA Miyako

振付・台本: ピーター・ダレル

音楽: ジャック・オффエンバック

編曲: ジョン・ランチベリー

美術: 川口直次

衣裳: 前田文子

照明: 沢田祐二

指揮: ポール・マーフィー

管弦楽: 東京交響楽団

Choreography and Scenario by Peter DARRELL

Music by Jacques OFFENBACH

Music arranged and Orchestrated by John LANCHBERY

Set Designer: KAWAGUCHI Naaji

Costume Designer: MAEDA Ayako

Lighting Designer: SAWADA Yuji

Conductor: Paul MURPHY

Orchestra: Tokyo Symphony Orchestra

2024.

2/23 (金・祝) 13:00 | 24 (土) 13:00/18:00 | 25 (日) 13:00

夢か、幻か。儚い恋路をたどる旅。三人のプリマと詩人の織りなす恋物語

英国が誇る振付家ピーター・ダレルの傑作『ホフマン物語』が待望の再演！

2015年に舞台装置・衣裳を一新して新制作された本作では、主人公ホフマンの恋愛遍歴を通じて濃密な人間ドラマが描かれ、演じるダンサーたちは極めて高度な表現力と芸術性を要求されます。青年期から初老に至るまでの主人公ホフマン、ホフマンが心奪われる魅力的な女性三人、様々な役柄に姿を変えて登場する悪魔、といった個性豊かな登場人物たちが織りなす恋愛模様は、実に多彩で魅力的です。オッフエンバック作曲の流麗で多様な美しい音楽にのせて舞台上で繰り広げられる、ロマンティックで豪華でありながらも一抹の寂しさも感じさせる幻想的な物語にご期待ください。

資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 制作部舞踊 広報担当 清水千奈美

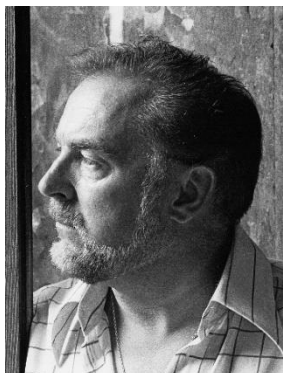
Tel : 03-5352-5735 / Fax : 03-5352-5737 / e-mail : shimizu_c4725@nntt.jac.go.jp

『ホフマン物語』を紐解くキーポイント

「『ホフマン物語』とは、あらゆる面において大きな挑戦です」

——アダム・クーバー（元英国ロイヤルバレエプリンシパル）

【ピーター・ダレルとは？】



ケネス・マクミラン、ジョン・クランコといった振付家たちと同世代で切磋琢磨した間柄で、英国バレエ史を語る上で欠かすことのできない振付家。第2次世界大戦後の英国では次々と新しい振付家が誕生しましたが、ダレルは其中でも物語性のあるバレエにおいて最も優れた振付家として評価されています。

ダレルは登場人物の深く複雑な内面や心理を、現代的リアリズムを持って描写し、彼がテーマとする題材や音楽は幅広く、時代を反映したものでした。例えば「囚人」（1957年 音楽：バルトーク）では社会問題を正面から取り上げ、『モッズ・アンド・ロッカーズ』（1963年 音楽：ビートルズ）では若い観客層の関心を引くなど、振付作品は革新的な作風で知られています。スコティッシュ・バレエ設立後は観客層が増加するに伴い、『ホフマン物語』（1972年）『シンデレラ』（1979年）や、『ジゼル』（1971年）『白鳥の湖』（1977年）といった古典名作バレエの振付も手がけ、幅広い作品を創作。スコティッシュ・バレエのレパートリー拡充とカンパニーのレベル向上に多大なる貢献を果たしました。

『ホフマン物語』をスコティッシュ・バレエで主演したアダム・クーバーは、「ピーター・ダレルが60、70年代に他の振付家を取り上げないような素材を用い、バレエ言語を新たな手法で用いました。マクミラン、クランコと比べてスコットランドという小さな地域のバレエ団にいたこと、二人のように世界ツアー等をしなかったことが彼の知名度を世界的なものにしなかったのではないか、と思います。ダレルは、バレエを通じて物語を語ることができました。そして彼のダンスを実際に踊り、彼の振り付け方、表現に強く共感しました」とダレルについて語っています。

『ホフマン物語』をスコティッシュ・バレエで主演したアダム・クーバーは、「ピーター・ダレルが60、70年代に他の振付家を取り上げないような素材を用い、バレエ言語を新たな手法で用いました。マクミラン、クランコと比べてスコットランドという小さな地域のバレエ団にいたこと、二人のように世界ツアー等をしなかったことが彼の知名度を世界的なものにしなかったのではないか、と思います。ダレルは、バレエを通じて物語を語ることができました。そして彼のダンスを実際に踊り、彼の振り付け方、表現に強く共感しました」とダレルについて語っています。

【男性が主役のバレエ】

全幕バレエ作品は女性が主役のものが多いという事実がある中、ピーター・ダレルの『ホフマン物語』は、男性が主役であり、タイトルロールにもなっていることは特筆すべき点です。

『ホフマン物語』は第1幕、第2幕、第3幕、プロローグ&エピローグと4つの物語によって構成されており、ホフマンは20代、30代、40代、そして初老の男性を演じ分けることが求められる、チャレンジングな役柄です。また、ライトでポップな第1幕、ドラマティックでありながらクラシックバレエの美しさも堪能できる第2幕、人間の欲望や汚い部分をさらけ出す第3幕と、短編小説集を読んでいるかのようにそれぞれ味わいが異なります。ホフマンは年代もカラーも異なる各幕を通して、ホフマンというキャラクターを生き抜き、プロローグとエピローグではその生き様を佇まいで表現しなくてはなりません。そうしたホフマンと同様に全編を通じて登場するのが、悪の化身（リンドルフ／スパランザーニ／ミラクル医師／ダーバテュート）です。ホフマンは、一貫して“ホフマン”の人生を演じますが、悪の化身は幕が変わるごとに名前も立場も異なる悪を演じなければならず、多様な役柄を演じ分ける力量が必要とされます。ホフマンと悪の化身、この対照的な二役がどのように演じられるか、ぜひご注目ください。

【幕ごとに変わる3人の女性主役たち】

『ホフマン物語』では、ホフマンを魅了するヒロインが1幕のオリンピア、2幕のアントニア、3幕のジュリエッタ、と幕ごとに変わるため、その変化に応じて3種類の踊りと設定をお楽しみいただけます。各幕の女性主役はプリンシパル級の女性が配役されており、どの幕も見応えがあり、かつバラエティに富んでいます。裏を返せば、舞台を成立させるには素晴らしい女性ダンサー3名の存在が不可欠な作品なのです。

ものがたり

【プロローグ】

初老の詩人ホフマンは、劇場前のカフェで恋人のオペラ歌手ラ・ステラを待っている。彼女が現れ彼への手紙を言付けるが、議員リンドルフ（実は悪魔）がその手紙を取り上げてしまう。ホフマンは友人たちに求められて、過去の恋愛遍歴を話し始める。

【第1幕 オリンピアの幕】

人形師スパランザーニ（実は悪魔）がホフマンに魔法の眼鏡をかけさせると、機械じかけの人形オリンピアが可憐な少女に見える。彼は恋に落ち、結婚を申し込む。ホフマンは彼女と踊るが、最後には人形は彼の手の中でバラバラに崩れ落ちる。



【第2幕 アントニアの幕】

10年後。ピアノ教師の娘アントニアは心臓が弱いにもかかわらず恋人ホフマンのピアノに合わせて踊るので、心配した父はホフマンを去らせ、医師を呼ぶ。ミラクル医師（実は悪魔）は、アントニアに催眠術で自分はバレリーナだと思い込ませ、ミラクル医師はホフマンにピアノを弾き続けるように強制し、彼女は踊り続ける。ついに、アントニアはホフマンの腕の中で息絶える。



【第3幕 ジュリエッタの幕】

年齢を重ね、今では宗教に帰依したホフマンがダーパテュート（実は悪魔）のサロンを訪れる。そこで、高級娼婦ジュリエッタがホフマンを誘惑する。十字架を奪われ一時的に影を失ったホフマンが、神に赦しを乞うと影を取り戻し、ダーパテュートとジュリエッタは消え失せる。



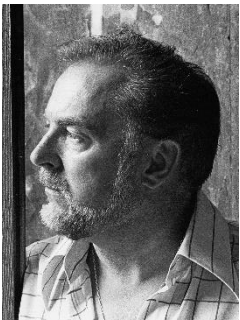
【エピローグ】

語り終えたホフマンは、酔いのため眠ってしまう。恋人ラ・ステラが現れるが、酔いつぶれた彼の姿と丸めて捨てられた手紙を見つける。ホフマンに失望した彼女はリンドルフと一緒に去ってしまう。目覚めたホフマンは事情を悟り、1人立ち尽くすのだった。

2018年公演より
撮影：鹿摩隆司

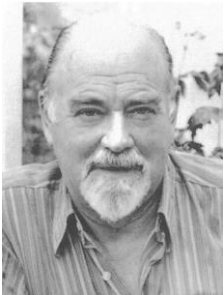
スタッフ プロフィール

【振付・台本】 ピーター・ダレル Peter DARRELL



英国リッチモンド生まれ。1944～46年サドラーズウェルズ・バレエ学校に学び、46～47年サドラーズウェルズ・シアター・バレエで踊る。同団を離れ、ミュージカル、及びロンドン・フェスティバル・バレエ他のカンパニーに出演、51年に初の振付作品『ミッドサマー・ウォッチ』をバレエ・ワークショップで発表。57年エリザベス・ウェストと共にウェスタン・シアター・バレエを設立。62年のウェストの死後は単身で監督を務め、69年本拠地をグラスゴーに移し、スコティッシュ・シアター・バレエと改名。（現在のスコティッシュ・バレエ）。設立当初からダレルの作風により同団の独特のイメージが形成される。『囚人』（1957年）では、ダンスによって社会問題を真正面から取り上げた。また、ビートルズの音楽を使用した『モッズ・アンド・ロッカーズ』など多彩な作品を創作した。本拠地がグラスゴーに移ったあとには、作品の幅を広げ『ジゼル』（71年）、『ホフマン物語』（72年）、『白鳥の湖』（77年）、『シンデレラ』（79年）といった作品を生み出した。また、様々な小品も振付しており、作品はオーストラリア、チェコスロバキア、日本、香港、アメリカでも上演されている。84年にCBE（大英帝国勲章）受勲。87年に58歳で死去。

【編曲】 ジョン・ランチベリー Music arranged by John LANCHBERY



ロンドン生まれ。奨学金を得て王立音楽院でヘンリー・ウッドらに師事し作曲を学ぶ。ロンドン・メトロポリタンバレエの音楽監督を経て、サドラーズ・ウェルズ・バレエの指揮者となる。1960年よりロイヤルバレエの首席指揮者に指名され、フレデリック・アシュトン振付の『リーズの結婚』をはじめとする多くのバレエ・スコアの編曲に携わる。72年からはオーストラリア・バレエの音楽監督を務め、『ドン・キホーテ』『メリー・ウィドウ』などのバレエ・スコアを編曲した。さらに映画やBBCのテレビ番組の音楽も手がけ、ベアトリス・ポッターの映画音楽では高い評価を受けた。78年から80年にかけてアメリカン・バレエ・シアターの音楽監督を務めたのち、世界の主要歌劇場でバレエ指揮者として活躍。91年にはルドルフ・ヌレエフの最後の仕事となったパリ・オペラ座バレエ『ラ・バヤデール』の編曲を仕上げた。受賞は数多く、90年には音楽の貢献に対してOBEを授与されている。97年よりオーストラリア・バレエの首席客員指導員だった。新国立劇場へは99年『シンデレラ』で初登場、2000年初演の牧阿佐美改訂振付『ラ・バヤデール』では編曲を手がけるとともに指揮を務めた。03年死去。

【美術】 川口直次 KAWAGUCHI Naoji



1962年日本放送協会に入局。大河ドラマなどテレビドラマの美術で活躍するかたわら、オペラ・バレエ・演劇などの舞台美術を数多く手がける。77年伊藤熹朔賞受賞。83年文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊。日本放送協会を退職後、武蔵野美術大学で、舞台美術、映像美術の教育に携わる。新国立劇場のバレエ公演では、『パキータ』『こどものためのバレエ劇場『シンデレラ』』、2014年『眠れる森の美女』、15年『ホフマン物語』、17年『くるみ割り人形』、オペラ公演では『セビリアの理髪師』『トスカ』『こうもり』の美術を手がけた。その他バレエの代表作としては、『新 白鳥の湖』『ロミオとジュリエット』（松山バレエ団）、『ドン・キホーテ』（牧阿佐美バレエ団）など。近年手がけたオペラ作品としては『ラ・ボエーム』『フィガロの結婚』『セビリアの理髪師』（名古屋二期会）、新作オペラ『いのち』（長崎県オペラ協会公演）などがある。オペラ、バレエのほかに演劇や映画の美術を多数手がけており、代表的な映画作品に伊丹十三監督作品『静かな生活』『スーパーの女』『マルタイの女』がある。武蔵野美術大学名誉教授。

【衣裳】 前田文子 MAEDA Ayako



1988年より緒方規矩子に師事。95年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてイギリスへ留学。新国立劇場では演劇公演『喪服の似合うエレクトラ』『夢の痂』『ヘンリー六世』『雨』『リチャード三世』『アジア温泉』『プレス・オブ・ライフ』『星ノ数ホド』『オレステイア』『骨と十字架』『リチャード二世』『東京ゴッドファーザーズ』『キネマの天地』『レオポルトシュタット』、オペラ公演『蝶々夫人』『鹿鳴館』、バレエ公演では石井潤『カルメン』、ダレル『ホフマン物語』、イーグリング『くるみ割り人形』、ダンス公演の伊藤キム『close the door, open your mouth』、前田清実『きらめく背骨』の衣裳も手がけている。95年度伊藤熹朔賞新人賞、第10回・第25回・第28回読売演劇大賞優秀スタッフ賞、2003年度伊藤熹朔賞、第5回橘秋子舞台クリエイティブ賞、第53回紀伊國屋演劇賞個人賞、第30回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞を受賞。

【照明】 沢田祐二 SAWADA Yuji



東京生まれ。文化庁派遣在外研修員としてロンドン、ベルリンで演劇、オペラ、バレエの照明法を研修。現在は演劇、オペラ、バレエ、ミュージカルなど幅広いジャンルで照明デザイナーとして活躍。新国立劇場におけるバレエ公演では『眠れる森の美女』『ホフマン物語』『シンデレラ』『ロメオとジュリエット』『ライモンダ』『白鳥の湖』『ジゼル』『マノン』『カルメン』『オルフェとエウリディーチェ』『椿姫』『火の鳥』『パゴダの王子』など。日本バレエ協会公演『白鳥の湖』『ジゼル』『眠れる森の美女』『アンナ・カレーニナ』なども手掛ける。他に新国立劇場ではオペラで『カルメン』『魔弾の射手』『黒船』『修善寺物語』『鹿鳴館』『夜叉ヶ池』、演劇では『城』『わが町』『アジア温泉』『ピグマリオン』『かもめ』『オレステイア』などを手掛ける。第1、10回照明家協会賞大賞、文部大臣奨励賞。第1回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞。第33回紀伊國屋演劇賞。第1回橘秋子舞台クリエイティブ賞を受賞。

【指揮】 ポール・マーフィー (Paul MURPHY)



バーミンガム・ロイヤルバレエとそのオーケストラ、ロイヤル・バレエ・シンフォニアの首席指揮者。劇場での公演に加え、コンサートや収録でも共に仕事をしている。1994年以来、ロイヤルオペラハウス管弦楽団と定期的に仕事をしている。その他、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ハレ管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、BBC ナショナル・ウェールズ管弦楽団、ニュー・クイーンズ・ホール管弦楽団、BBC コンサート・オーケストラ、オペラ・ノース管弦楽団、バーミンガム市交響楽団等、英国の優れたオーケストラを多数指揮している。海外では、ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ワシントン・ナショナル・オペラ管弦楽団、ソフィア・オペラ管弦楽団、シチリアのテアトロ・マッシモ管弦楽団等と仕事をしている。また、ニューヨーク・シティ・バレエ、バレエ・アム・ライン、ロイヤル・フランダース・バレエ、オランダ国立バレエ、最近ではオーストラリア・バレエのゲスト指揮者を務めている。CD のリリースではハレ管弦楽団(サン・サーンスのピアノと管弦楽曲全曲)、ロイヤル・バレエ・シンフォニア、ニュー・クイーンズ・ホール管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との共演がある。97年、英国王立音楽院のアソシエイトに選ばれた。新国立劇場では、『アラジン』『カルミナ・ブルーナ』『ガラントゥリーズ』『火の鳥』『シンフォニー・イン・C』『ペンギン・カフェ』『パゴダの王子』ほかを指揮している。

配役・プロフィール

2024年2月	23日、24日 18:00	24日 13:00	25日
ホフマン	福岡雄大	井澤 駿	奥村康祐
オリンピア	池田理沙子	奥田花純	奥田花純
アントニア	小野絢子	米沢 唯	小野絢子
ジュリエッタ	柴山紗帆	木村優里	米沢 唯
リンドルフほか	渡邊峻郁	中家正博	中家正博

井澤 駿 IZAWA Shun <プリンシパル> ホフマン 2月24日 13:00 出演



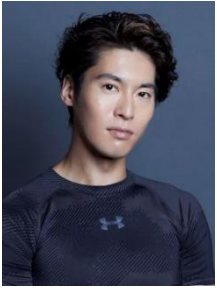
群馬県出身。関田和代、菅居理枝子、田中洋子に師事し、2014年新国立劇場バレエ団に入団。同年F.アシュトン『シンデレラ』で主役デビューを果たし、17年プリンシパルに昇格。『ドン・キホーテ』『白鳥の湖』などの古典やR.プティ『こうもり』、P.ダレル『ホフマン物語』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』の主役、D.ビントレー『アラジン』ランプの精ジーンなどを踊っている。18年中川鋭之助賞、20年舞踊批評家協会新人賞、22年芸術選奨文部科学大臣新人賞。

奥村康祐 OKUMURA Kosuke <プリンシパル> ホフマン 2月25日出演



大阪府出身。母・地主薫に師事し、09年モスクワ国際バレエコンクールで銀賞受賞。翌年文化庁芸術祭新人賞を受賞。12年新国立劇場バレエ団に入団し、16年よりプリンシパル。『白鳥の湖』『眠れる森の美女』『ドン・キホーテ』『ライモンダ』などといった古典作品やD.ピントレー『アラジン』、R.プティ『コッペリア』、M.フォーキン『ペトルーシュカ』主役のほか、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのルイス・キャロルなどを踊っている。10年文化庁芸術祭新人賞、14年舞踊批評家協会新人賞、16年中川鋭之助賞、22年芸術選奨文部科学大臣賞。

福岡雄大 FUKUOKA Yudai <プリンシパル> ホフマン 2月23日、24日18:00出演



大阪府出身。ケイ・バレエスタジオ、チューリッヒ・バレエ団を経て2009年新国立劇場バレエ団に入団。劇場デビューとなる『ドン・キホーテ』で主演し、以降ほとんどの作品で主役を踊る。12年よりプリンシパル。D.ピントレー『アラジン』、『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤル・バレエにゲスト主演した。17、19年ダンス公演中村恩恵『ベートーヴェン・ソナタ』でも高い評価を得る。11年中川鋭之助賞、13年舞踊批評家協会新人賞、18年芸術選奨文部科学大臣新人賞、23年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

小野絢子 ONO Ayako <プリンシパル> アントニア 2月23日、24日18:00、25日出演



東京都出身。小林紀子バレエアカデミー、新国立劇場バレエ研修所を経て、2007年に新国立劇場バレエ団に入団。08年『アラジン』の主役に抜擢され、その後もほとんどの作品で主役を踊る。11年プリンシパルに昇格。13年『アラジン』、14年『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤル・バレエにゲスト主演した。11年芸術選奨文部科学大臣新人賞および舞踊批評家協会新人賞、14年服部智恵子賞、16年橘秋子賞優秀賞、19年芸術選奨文部科学大臣賞。

木村優里 KIMURA Yuri <プリンシパル> ジュリエッタ 2月24日13:00出演



千葉県出身。泉バレエ塾、橘バレエ学校で学ぶ。新国立劇場バレエ研修所を経て、2015年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。15年『くるみ割り人形』金平糖の精役で主役デビューを果たす。『ドン・キホーテ』『眠れる森の美女』『ジゼル』やF.アシュトン『シンデレラ』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』、R.プティ『コッペリア』、森山開次『竜宮りゅうぐう』で主役を踊り好評を博した。22年プリンシパルに昇格。17年舞踊批評家協会新人賞、20年中川鋭之助賞を受賞。

柴山紗帆 SHIBAYAMA Saho <プリンシパル> ジュリエッタ 2月23日、24日18:00出演



東京都出身。バレエスタジオDUO、ハリッド・コンサーヴァトリー、ピッツバーグ・バレエシアター・スクールで学ぶ。2014年に新国立劇場バレエ団に入団。15年に牧阿佐美『くるみ割り人形』金平糖の精で主役デビューを果たし、『白鳥の湖』『ラ・バヤデール』『ドン・キホーテ』『ライモンダ』『ジゼル』、F.アシュトン『シンデレラ』、森山開次『竜宮りゅうぐう』の主役のほか、W.イーグリング『眠れる森の美女』フロリナ王女、P.ダレル『ホフマン物語』オリンピアなどを踊っている。21年ファースト・ソリスト、23年プリンシパルに昇格。

米沢 唯 YONEZAWA Yui <プリンシパル> アントニア 2月24日 13:00、ジュリエッタ 25日出演



愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオ、サンノゼバレエ団を経て、2010年に新国立劇場バレエ団に入団。11年『パゴダの王子』で初主役を務め、13年プリンシパルに昇格。初演した主な役にはW.イーグリング『眠れる森の美女』オーロラ姫、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのアリス、森山開次『竜宮 りゅうぐう』プリンセス亀の姫などがある。17年芸術選奨文部科学大臣新人賞、18年舞踊批評家協会新人賞、20年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子優秀賞ほか受賞多数。

池田理沙子 IKEDA Risako <ファースト・ソリスト> オリμπピア 2月23日、24日 18:00 出演



東京都出身。バレエスタジオDUOで学ぶ。2009年ユース・アメリカ・グランプリ女性シニアの部銅メダルほかコンクール受賞歴多数。Kバレエカンパニーを経て、16年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団し19年ファースト・ソリストに昇格。『眠れる森の美女』『くるみ割り人形』『ジゼル』やF.アシュトン『シンデレラ』、R.プティ『コッペリア』、D.ビントレー『アラジン』、森山開次『竜宮 りゅうぐう』、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』などで主役を踊り好評を博している。

奥田花純 OKUDA Kasumi <ソリスト> オリμπピア 2月24日 13:00、25日出演



福岡県出身。田中千賀子ジュニアバレエ団で田中千賀子、下村由理恵バレエアンサンブルで篠原聖一、下村由理恵に師事する。2010年に新国立劇場バレエ団に入団。14年D.ビントレー『パゴダの王子』さくら姫役で主役デビュー。14年ソリストに昇格。D.ビントレー『アラジン』主演、F.アシュトン『シンデレラ』秋の精、T.サープ『イン・ジ・アッパー・ルーム』、G.バラシン『シンフォニー・イン・C』第三楽章プリンシパル、『ドン・キホーテ』街の踊り子、P.ダレル『ホフマン物語』オリμπピアなどを踊っている。

渡邊峻郁 WATANABE Takafumi <プリンシパル> リンドルフほか 2月23日、24日 18:00 出演



福島県出身。鈴木寿雄のもとでバレエを始める。2009年モナコ・プリンセス・グレース・ダンスアカデミーを首席で卒業し、仏トゥールーズのキャピトルバレエ団に入団。K.ベラルビ『美女と野獣』ほかに主演。16年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団し、19年プリンシパル昇格。古典作品の主役やC.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのジャック、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』ロメオ、『マノン』レスコー、F.アシュトン『シンデレラ』王子、『夏の夜の夢』オーベロン、中村恩恵・首藤康之『Shakespeare THE SONNETS』などを踊り好評を博している。

中家正博 NAKAYA Masahiro <ファースト・ソリスト>リンドルフほか 2月24日 13:00、25日出演



大阪府出身。法村友井バレエ学校、ワガノワバレエ学校を経て、2010年牧阿佐美バレエ団に入団。プティ『ノートルダム・ド・パリ』のフロロ役に抜擢され、『ロメオとジュリエット』『くるみ割り人形』『ジゼル』に主演。15年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団し、16年『ドン・キホーテ』で主役のバジルを踊った。またF.アシュトン『シンデレラ』王子、P.ダレル『ホフマン物語』リンドルフ、W.イーグリング『くるみ割り人形』ドロツセルマイヤー、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』ティボルト、『マノン』ムッシューG.M.、M.フォーキン『ペトルーシュカ』ムーア人など様々な役を演じている。23年ファースト・ソリストに昇格。

公演概要

2023/2024 シーズン

新国立劇場バレエ団『ホフマン物語』

Tales of Hoffmann

芸術監督 吉田 都
振付・台本 ピーター・ダレル
音楽 ジャック・オッフエンバック
編曲 ジョン・ランチベリー
美術 川口直次
衣裳 前田文子
照明 沢田祐二

指揮 ポール・マーフィー
管弦楽 東京交響楽団

出演 新国立劇場バレエ団

【公演日程】

2024 年

2月23日(金・祝) 13:00
2月24日(土) 13:00 **託児** / 18:00
2月25日(日) 13:00

*開場は開演 45 分前です。開演後のご入場は制限させていただきます。

託児 託児室<キッズルーム「ドレミ」>がご利用になれます。

【会場】新国立劇場 オペラパレス (京王新線 新宿駅より 1 駅、初台駅中央口直結)

【予定上演時間】約 2 時間 4 0 分 (休憩含む)

【ウェブサイト】<https://www.nntt.jac.go.jp/ballet/hoffmann/>

【チケット料金 (税込)】

席種	S 席	A 席	B 席	C 席	D 席	Z 席*
料金 (税込)	14,850 円	12,650 円	9,350 円	6,050 円	4,950 円	1,650 円

*Z席は舞台のほとんどが見えないお席です。予めご了承ください。

※Z席は公演当日朝 10:00 から、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。1人1枚です。

※上記の方法での先着販売後、残席がある場合は開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。

※電話での予約は承れません。

【前売り開始日】

アトレ会員先行販売期間：2023年12月2日（土）10:00～12日（火）

新国メンバーズ先行販売期間：2023年12月3日（日）10:00～12日（火）

一般発売日：2023年12月16日（土）10:00～

【チケットのお求め・お問い合わせ】

<ウェブでの予約・購入>

新国立劇場 Web ボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>（PC、携帯共通）

チケットぴあ <http://pia.jp/t/>（PC、携帯共通）

イープラス <http://eplus.jp/>（PC、携帯共通）

ローソンチケット <http://l-tike.com/>（PC、携帯共通）

<電話での予約・購入>

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）